

全国大学書道学会

会報

34

令和7年(2025)
6月1日発行
全国大学書道学会

「三学戒」を旨として

理事長 永 由 徳 夫

江戸時代後期の儒学者、佐藤一斎は次のように述べます。「少而学則壯而有為、壯而学則老而不衰、老而学則死而不朽(少くして学べば則ち壯にして為すこと有り、壯にして学べば則ち老いて衰へず、老いて学べば則ち死して朽ちず)」「言志晩録」第六十条。これは所謂「三学戒」と称されるものです。今期(二〇二四年四月～二〇二六年三月)も折り返しを過ぎ、はたしてこの一斎の言のように、会員の皆様がそれぞれのお立場で、学会の活動に参加しやすい心持ちになっていただけるよう運営できているか、自問自答しているところであります。

本学会では、令和六年度より「長期会員優遇措置」を導入し、運用を開始しました。現在、会員総数二五〇有余名、うち優遇措置申請により終身会員に移行された会員は十九名です。今後ともその学識を後学の徒に披歴され、末永く本学会のためにご指導を賜りますようお願い申し上げます。

会報五頁に掲載しているように、今年度より「若手会員のための研究発表旅費補助規程」を運用いたします。本規程は、大会開催年度に満三十歳以下の会員が、大会で研究発表を行った場合、旅費の補助を実施するものです。また、これと併せて、準会員(大学院生)の大会参加費を無料(昨年度まで二千元)とします。さらに、大学生(学部生)にも門戸を広げ、記念講演や研究発表の聴講を可といたします(聴講無料)。このことについて、会員が関係する大学において、周知喧伝いただけますなら幸いです。

また、今年度より「学会賞」「学術賞」「功労賞」を設け、学術的成果を挙げた会員及び学会運営に尽力された会員を顕彰いたします。この表彰により、研究水準のより一層の向上を図り、また、本学会の運営のために、多年にわたって牽引された労に報いたく存じます。

国内外における研修を充実させていくことは、既に会報三十二号で皆様にお約束したとおりです。三月二十七日～三十日の日程で台湾との国際学術交流を実施しました。殊に台湾藝術大学にて「書如也——二〇二五」と題して開催されたシンポジウムや書作展は、大変充実したものとなりました。会報六頁、『大学書道研究』第十八号(七月末日刊行)の報告をお読みいただければ、その場その時の熱気が伝わりうかと存じます。作品の日台往復に関しては、福岡教育大学の和田圭壮先生、服部一啓先生に、ご多用の中、大会に続けてお骨折りいただきましたこと、あらためて御礼を申し上げます。

今年度は、十一月二十九日～三十日の日程で新潟研修旅行を実施いたします(会報七頁参照)。良寛、會津八一、諸橋轍次を巡る旅です。気ままな個人旅行も乙ですが、団体でないと行きにくい所もあります。本学会では、そのような場を研修の機会として提供していきたいと考えています。どうぞ奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

九月十二日～十四日の日程で、三学会信州大会が開催されます(本学会は最終十四日)。信州大学の小林比出代先生には着々とご準備くださり、心より感謝申し上げます。先達て信州大学教育学部を表敬訪問いたしました。構内には碑林公園があり、郷土の偉人、比田井天来・田代秋鶴らの揮毫による雄壮なる碑が並び立っています。また、懇親会会場となるホテル犀北館にも巖谷一六・西川春洞の扁額をはじめ、種々の名跡が飾られ、胸躍ります。

記念講演では、東京大学名誉教授・公益財団法人陽明文庫理事であられる田島公先生を講師として招聘いたしました。田島先生は長年にわたり、禁裏・公家文庫について研究され、これら数多の至宝を江湖に遍く公開し、斯界に裨益せんと注力された碩学泰斗であられます。会員の皆様にとっても非常に興味深いお話が伺えるものと存じます。

已上、縷々述べてまいりました企画立案や改革案は、ひとえに将来の展望を見据え、長期的な視座から学界の活性化を目指すものであります。老壮青相俟って、「三学戒」を旨とし、ともに歩んでまいりましょう。

「全国大学書道学会第六十七回 令和七年度（信州）大会」にお越しくだけさい

信州大学 学術研究院 教育学系
(信州大学教育学部) 小林 比出代

本学会第六十七回大会を信州の地で開催いただきますこと、大変光栄に存じます。会員の皆様方に、より豊かなお時間と空間をお過ごしただけですよう、力及ばずながらも精一杯努めたいと存じます。お導きのほどよろしくお願い申し上げます。

信州大会ご参加にあたり、特記致したい事項が三点ございます。

【一 信州大会の会場 ― 信州大学教育学部の所在地 ―】

信州大学は、「広域型キャンパス（通称「蛸足キャンパス」）」と称されます総合大学で、全八学部及び全学教育センターが長野県内五つのキャンパスに配されています。本部は、北アルプスの麓、「学都・楽都・岳都」と表されます国宝松本城の城下町、松本市にあります。が、教育学部キャンパスは、善光寺のお膝元にあたる門前町、長野市に所在しております。因みに、全キャンパス中、最も小さく、大変慎ましやかなキャンパスです。お間違えなきようお越しくだけさい。

【二 「信大教育学部から門前町さんぽ」のお勧め】

既述のように、長野の街は、およそ一四〇〇年前に開かれた善光寺の参道を中心とした門前町です。教育学部キャンパスは善光寺の程近くに存します。街中には、創業一〇〇〇三〇〇年以上の老舗が軒を連ね、数多の文人墨客がご揮毫された看板や暖簾、また、俳人たちの多くの句碑にも出会うことができます。

信州大学教育学部国語教育コース（当方所属コース）では、普段何気に生活している街に飛び出して門前町長野の歴史に思いを馳せ、理解を深めることをねらいとして、松本キャンパスから学部が上がってきた当コースの二年生を中心に、コロナ期前までの毎年五月中旬、「長野文学散歩」を開催して参りました。教育学部キャンパス正門横の駐車場入口「石碑公園」に建立される四つの顕徳碑、すなわち、信州大学教育学部の前身、長野県尋常師範学校／長野師範学校の時代に「信州教育」を築いた四人の先生方を讃えた碑を鑑賞後、例えば大学周辺から善光寺に向かう行程といったその年ごとの立案に基づき、学生とコース教員が散策するという企画です。その際、コースで作成

したオリジナル資料とともに、学生の皆さんに必ず配付したのが「長野駅北書道散策」(長野県高等学校教育文化会議 書道研究会)です。

これは、現在、四国大学教授であられる太田剛先生が、長野県の公立高等学校で教鞭を執られていらつした当時に作成されたものです。この度、太田先生からご許可をいただき、学会にご参加くださる皆様に、学会配付資料一式と併せて当該の資料を配付致します。学会会期中の隙間時間や、学会期前後のひとときに、本資料を頼りになさって長野の街を逍遙されますこと、強くお勧めしたいと存じます。せっかくの契機です。「善光寺さん」のご参拝に併せまして、巨星達の玉作のご鑑賞、門前町長野のそぞろ歩きもお愉しみてください。

【三 書道三学会懇親会へのお誘い】

善光寺参拝はじめ、長野市を訪れた文化人の多くが逗留してきた代表的な御宿に、老舗ホテル「THE SAHOKUKAN HOTEL（長野ホテル犀北館）」が挙げられます。本学会第二次案内に同封いたします「懇親会のご案内」にも記しましたように、信州大会での書道三学会懇親会会場は、このホテル犀北館です。

この度の懇親会開催に際しまして、ホテルサイドと打ち合わせさせていただき、ホテルのご厚意として、旧犀北館建築の貴賓室である「菊の間」に展示されている書作品をはじめとしたホテル犀北館所蔵の書美術品を、懇親会ご出席の皆様全員にご鑑賞いただけます運びとなりました。ここに一端を記させていただきます。巖谷一六、西川春洞、初代 中村蘭台、川村驥山、東郷平八郎、とその贅沢さには、長野市における、天皇家はじめ宮家定宿としての威厳を感じます。一世紀を超える歴史の中で逗留された方々を挙げてみましても、長三州、中林梧竹、日下部鳴鶴、夏目漱石、川端康成、高村光雲、と圧巻の一言に尽きます。なお、ホテル犀北館は、信州大学教育学部から五〇〇メートルほどの徒歩圏内（所要時間七分前後）ではありますが、往路「教育学部→ホテル犀北館」、復路「ホテル犀北館→JR長野駅」のマイク Robbins（無料）もお願いしてございますので、必要に応じてお使いください。

書写書道を基柱とする全国各地の皆様が信州にて一堂に会し、おめもじ叶う機会を得ましたホテル犀北館の至宝とともに、初秋の宵口、至福の時をご一緒できますこと、この上なく嬉しく、また誠に有難く存じます。

第六十七回信州大会に、ぜひお越しくだけさいますよう。心待ちにしております。

全国大学書道学会 第67回 令和7年度(信州)大会 開催要項(第1次案内)

下記の要領で、全国大学書道学会第67回令和7年度(信州)大会を開催します。ふるってご参加、研究発表のご応募、会員書作展へのご出品をいただきたくご案内申し上げます。

- 1) 主 催 全国大学書道学会
- 2) 開催大学 信州大学教育学部
- 3) 開催日 令和7(2025)年9月14日(日)
- 4) 大会会場 信州大学教育学部 (〒380-8544 長野市西長野6-10) 図書館2階大講義室他
- 5) 参加費 3,000円 (今回大会より) * 研究発表者は無料
* 準会員(大学院生)は無料
* 会員の関係する大学の学生(学部生)の聴講も可
(聴講無料。但し、会員は、事務局宛に事前申請をすること。)
- 6) 日 程 (予定 * 発表件数により変動する場合があります。)
 9:30 受付(M館(管理校舎)玄関前)
 9:30~10:30 開会式・総会(以下、図書館2階大講義室他)
 10:30~12:10 研究発表(1)
 12:10~13:10 昼食
 13:10~14:50 研究発表(2)
 15:00~16:20 大会記念講演
 16:30 閉会

7) 研究発表の募集

大会における研究発表を希望する会員(準会員を含む)は、下記を確認の上、発表要旨を期日までに事務局宛に郵送またはE-mail添付ファイルにてお送りください。内容は未発表のものに限ります。なお、共同研究の場合、発表者以外の方が会員でない場合も発表は可能です。研究発表は、発表用レジュメ・パワーポイント等を利用して行っていただきます。**発表用レジュメ(100部)は、9月5日(金)必着**で開催大学担当者宛に送付願います。

①発表要旨

- ・要旨には、研究の意義・ねらい、方法、結論等を簡潔に記してください。
- ・体裁：word文書A4標準設定、縦置き縦書き、上下2段組。1段は、縦33字、横23行、10.5ポイント。書式はホームページ(<http://all-shodo.jp>)>「会員への情報」からもダウンロードできます。
- ・要旨は上段に記載し、最初の4行に、タイトル、所属機関名及び役職・発表者氏名(共同研究の場合は全員)を記し、本文は500字以上627字(19行)以内、全23行以内としてください。
- ・下段には、発表者氏名、郵便番号、住所、電話(FAX)番号、E-mailアドレスを付記してください。

②申込締切 7月10日(木) 必着

- ③送付先 〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船6-1-3 鎌倉女子大学短期大学部初等教育学科
TEL: 0467-33-8211 E-mail: sgym-hyt@kamakura-u.ac.jp
全国大学書道学会 事務局長 杉山 勇人 宛

8) 学会誌への投稿

- ・研究発表後に、学会誌へ投稿される場合には、連絡先を明記した別紙とともに、完成原稿(3部)を**2026年2月2日(月)必着**までに学術局長宛に送付してください。

【原稿送付先】 〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 相模女子大学10号館

全国大学書道学会 学術局長 下田 章平 宛

※必ず書留またはレターパック等の配達記録便を利用し、原稿及び別紙の連絡先(氏名、郵便番号、住所、電話(FAX)番号、E-mailアドレス)を郵送してください。

- ・大会における研究発表を経ずに、学会誌へ「論文」「その他の原稿」を投稿する場合は、2025年11月30日(日)(必着)までに学術局長宛にそれぞれの原稿の要旨を送付してください。原稿の要旨は、本学会ホームページ上の「会員への情報」内にある「研究発表要旨」を使用してください。学術局内での審議、常任理事会での承認を経た上で、投稿の可否を連絡します。

【要旨送付先】 全国大学書道学会学術局長 下田 章平 宛(s-shimoda@isc.sagami-wu.ac.jp)

9) 会員書作展

会員作品展を以下のように開催いたします。ふるってご出品ください。

詳細は、同封別紙の出品要項をご覧ください。

- (1) 会 期 令和7年9月12日(金)～9月14日(日) 9:00～16:00
※12月19日(金)～12月22日(月) 信濃教育博物館(長野市)にて一般公開の予定
- (2) 会 場 信州大学教育学部 図書館2階ギャラリー
- (3) 協 賛 費 5,000円
- (4) 作品規格 同封別紙「全国大学書道学会会員書作展出品要項」でご確認ください。
- (5) 内 容 自由
- (6) 送付期日 **7月9日(水) 必着厳守** ※ 協賛費を払い込みの上、作品、出品票を同封のこと。

* なお、協賛費は郵便振替口座払い込みとなります。今回同封の払込取扱票(赤色)を使い、年会費と併せて払い込んでください。

- 10) 大会記念講演 講師 田島 公 先生 (東京大学名誉教授、公益財団法人陽明文庫理事)
演題 「古代における中国書法の将来と古代・中世の書蹟・名筆・扁額の伝来
—禁裏・公家文庫の歴史と収蔵史料画像の公開—」(仮)

11) 三学会合同懇親会

三学会合同の懇親会を開催いたします。ふるってご参加ください。

日 時 9月13日(土) 18:00～20:30

場 所 THE SAIHOKUKAN HOTEL (長野ホテル犀北館)
〒380-0838 長野県長野市県町528-1 TEL: 026-235-3333 (代表)

会 費 7,000円

※会場となるホテルは、信州大学教育学部から500mほど(徒歩7分前後)の場所にあります。

希望者は、往路「教育学部→ホテル」、復路「ホテル→JR長野駅」のマイクロバス利用が可能です(無料)。

※懇親会での企画について、別添の資料をご参照ください。

12) 理事会【オンライン開催】

日 時 9月7日(日) 19:00～20:30 ※理事の皆様には別途ご連絡いたします。

13) 大会会場への交通・宿泊・昼食について

◎信州大学 長野(教育)キャンパスへのアクセス

①JR長野駅善光寺口1番のりばで、アルピコバス

「善光寺大門行(びんずる号)」 「善光寺經由宇木行」 「善光寺・西条經由若槻東条行」

「善光寺・若槻団地經由若槻東条行」のいずれかに乗車(10分)

バス停「花の小路」下車。(徒歩7分)

②JR長野駅善光寺口4番のりばで、中心市街地循環バス『ぐるりん号』に乗車(15分)

バス停「信大教育学部前」下車。(徒歩2分)

③JR長野駅善光寺口7番のりばで、アルピコバス

「県道經由戸隠中社行」 「鬼無里行」 「西裾花台団地行」のいずれかに乗車(10分)

バス停「信大教育学部前」下車。(徒歩2分)

◎宿泊について 宿泊先の紹介はしておりません。各自ご手配ください。

◎昼食について 昼食は各自ご手配ください。

【お問合せ】・研究発表、学会に関するお問い合わせ

全国大学書道学会事務局(杉山勇人/鎌倉女子大学/E-mail: sgym-hyt@kamakura-u.ac.jp / 0467-33-8211)

・大会に関するお問い合わせ

開催大学担当(小林比出代/信州大学/E-mail: hideyokb@shinshu-u.ac.jp)

本学会と併せて、下記の学会が開催されます。(参加費は、それぞれ別扱いです)

日時、会場等は各学会から送付される開催要項をご参照ください。

日本教育大学協会全国書道教育部門 9月12日(金) 13:00～16:30

全国大学書写書道教育学会 9月13日(土) 9:30～16:30

若手会員が研究発表する際の旅費補助について

本年度の信州大会より、本学会では、若手会員（満30歳未満と本規約では規定しました）が研究発表をする際の旅費を補助する制度を設けました。詳細は以下の通りです。申請書は本学会ホームページよりダウンロードが可能です。若手会員の皆様の発表をお待ちしております。不明点は、事務局・杉山（sgym-hyt@kamakura-u.ac.jp）までお問い合わせください。

若手会員のための研究発表旅費補助規程

【目 的】

第1条 本規程は、全国大学書道学会規約第3条の「書道に関する研究の充実と発展」のため、若手会員による研究発表を奨励し、以て学界の研究活動の活性化と長期的な研究水準の向上を図ることを目的とし、「若手会員のための研究発表旅費補助規程」として必要な事項を定める。（以下、「本規程」と表記する）

【対 象】

第2条 本規程における「若手会員」とは、大会開催年度に満30歳以下の者を指す。
本規程における「若手会員」のうち、本学会が開催する大会において、所定の手続きを行い、研究発表を行った者に対して旅費の補助を実施する。なお、研究発表については、個人またはグループの別による制限を設けない。
なお、準会員（大学院生）が申請する際には、本学会入会申込時の推薦会員、もしくは所属大学の指導教員（但し、会員に限る）による本規程第2条を満たし、第3条に該当しない旨の署名を必要とする。

【対象の除外】

第3条 以下のいずれかに該当する者は、本規程による補助を受けることができない。
①本学会の会費を滞納している者
②日本学術振興会特別研究員の身分を有する者
③別途、所属大学等による学会発表の補助を受ける者
④当該研究について、諸機関等より研究助成を受ける者

【申請の方法】

第4条 申請者は、研究発表申込時に「若手会員のための研究発表旅費補助申請書」（別紙様式）を生年月日を証する書類のコピーとともに事務局宛に提出する。なお、提出の書類は返却しない。

【交付の決定】

第5条 研究発表が受理された申請者について、常任理事会において審査を行い、研究発表受理の通知とともに研究発表旅費補助の金額を通知する。

【研究発表補助の金額】

第6条 研究発表旅費補助の金額は、研究発表者の居住地から大会開催地までの公共交通機関による経済的かつ合理的な経路に係る往復交通費（大学院生は学割適用）を超えない範囲内とし、常任理事会において、当該年度の予算を考慮し、1人3万円を上限として1千円単位で決定する。

【交付の手続き】

第7条 交付内定者には、当該研究発表の完了後に通知の研究発表旅費補助金を会計局より交付する。

【旅費補助の返却】

第8条 申請者が交付対象でないことが明らかとなった場合、また、申請内容に虚偽のあった場合は、交付された研究発表補助の全額をすみやかに返却しなければならない。

【規程の改正】

第9条 この規程の改正は常任理事会の決議を以て行う。

附 則

この規程は、令和7年4月1日から施行する。



申請書は、QRコードまたは本学会ホームページ（<https://all-shodo.jp/member.html>）からもダウンロードできます。

日台書法・研究交流の新たな一歩 ―第一回国際學術交流(台湾)報告―

二松学舎大学 関 俊 史

今回の学術交流は、二〇二三年度の全国大学書道学会創立六十五周年を記念した台湾への研修旅行がきっかけとなっています。研修旅行の際に台湾側より学術交流を行いたいとの熱心な提案を受け、二〇二五年三月末に台北で開催することとなりました。今回の学術交流に向けては、国際学術交流専門委員会が設置され、準備が進められてきました。ここでは非常に簡単ではありますが、今回の台湾での諸活動をご報告いたします。

三月二十七日に渡台し、空港から外に出た時、まるで日本の七月のような暑さと湿度が我々一行を迎えてくれました。到着後早速、何創時書法藝術基金会を訪れました。何國慶董事長をはじめ、基金会の先生方に迎えられ、清末初の書を直接拝見することができました。特に董其昌による自叙帖の臨書三巻を出陳いただきました。いずれも原帖からは大きく離れていますが、董其昌の学書態度の変遷が窺える貴重なものでありました。なお、何創時書法藝術基金会所蔵の作品は高精細の図版がインターネットで公開されており、ます。(目録→明代書法展→晚明書法大家)

二日目からは一転、曇り空で過ごしやすい気温で、少し肌寒く感じました。室内では常に冷房がかかっているため、互いに寒い寒いと言いつつ合うこともあり、ました。午前は故宮博物院を訪れ、午後は台湾藝術大学の鐘世凱校長、故宮博物院では漢代の瓦当から、鮮于樞、文徵明といった明清に至るまでの作品が展示されていました。特に王羲之「孝女曹娥碑」は精拓で、墨色も気品あるものでした。

その後、台湾藝術大学に移動し、日台書法交流展開幕式が盛大に行われました。開幕式では、日本側は横田恭三会長、永由徳夫理事長、大東文化大学の河内利治先生から御挨拶があり、台湾側からは、台湾藝術大学の鐘世凱校長、中華民国篆刻学会の施伯松理事長、中華民国書法教育学会の林亮吟理事長の挨拶があり、記念品の贈呈等が行われました。書道展は日本側から六十三点、台湾側から百点の出品がありました。



三日目は今回の訪台のメインイベントであるシンポジウム「日台書法教育學術研討會」が行われ、日本側が四名、台湾側が三名の報告がありました。日台双方の先生方から、日本も台湾も所属機関の垣根を越えた学術交流というのはこれまでにほぼ例がなく、大変意義深いものであるという御挨拶がありました。シンポジウムで特に印象的であったのは、近代書道史をめぐる諸問題のうち、板橋林氏の活動と収蔵、特に林朗庵の日台にまたがる書のコレクション形成についてでした。日本統治時代前後における日台の書をめぐる交流については、今後のさらなる研究の進展を予感させるシンポジウムでありました。

最終日は中央研究院の歴史語言研究所、歴史文物陳列館を訪れました。本館には「永元器物簿」をはじめとする多数の居延漢簡や甲骨資料、金石拓本資料、貴重な版本など非常に価値の高い資料が多数収蔵されております。そして、昨年度、中央研究院を訪れた際に拝見した「溫彦博墓誌銘」も展示されており、再びじっくりと見ることができたことも印象深かったです。その後一行は帰国の途につきました。

今回の研修で得たものは、自身のさらなる研究の糧となることはもちろんのこと、日々の学生の教育にも大きく裨益するものとなり、大変実り多い研修となりました。最後になりましたが、今回の企画に際して横田会長、永由理事長、そして事前の折衝にお骨折りをいただきました下田先生をはじめ、現地コーディネーターの劉筱梅さん、事前準備の委員会を含め、今回の研修に参画いただきましたすべての先生方に厚く御礼を申し上げます。

何創時書法藝術基金会ホームページ
「雲端博物館」



「會津八一と良寛をめぐる研修」へのお誘い

企画局では令和七年（二〇二五）十一月二十九日（土）～三十日（日）一泊二日の予定で新潟研修を計画しております。

會津八一、良寛、諸橋轍次等の記念館を貸切りバスにて御案内する予定です。企画局では、まず、おおよその参加人数を把握したいと考えております。参加を希望される方は、QRコードからのご回答にご協力をお願いいたします。

〈概要（予定）〉

日時 二〇二五年十一月二十九日（土）～三十日（日）の一泊二日

研修予定地

- ・會津八一記念館
- ・北方文化博物館
- ・良寛記念館
- ・五合庵
- ・諸橋轍次記念館 他

宿泊 会津八一記念館

集合 新潟市會津八一記念館

解散 JR燕三条駅

費用 一人 二～三万円（予定） ※一人部屋、食事代込



<https://forms.gle/jyvPKaDAyDo1p8tKA>

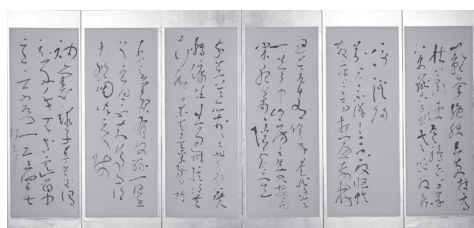
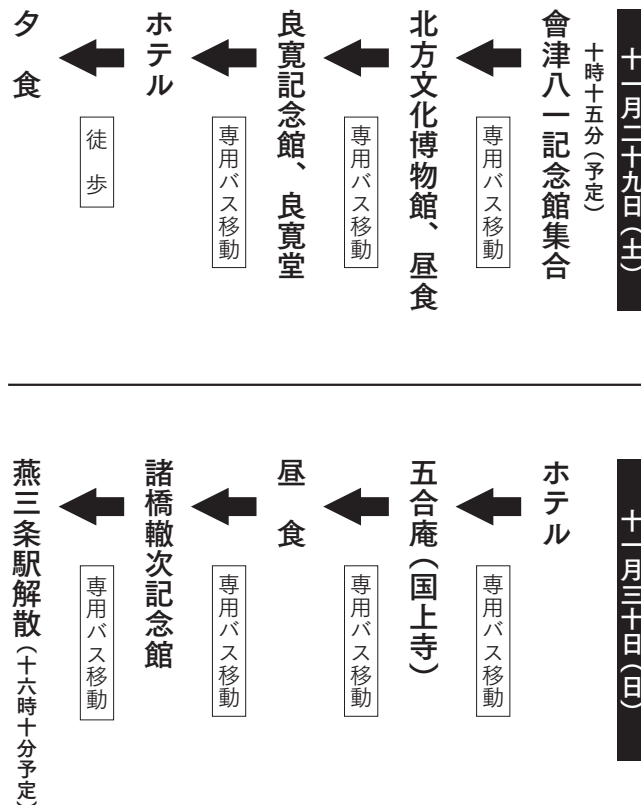
※参加を希望される方は六月三十日（月）までに上のQRコードまたはURLにて参加の予約をお願いいたします。予約の方に、今後の申し込み等の連絡をいたします。



會津八一記念館展示室の様子

「會津八一と良寛をめぐる研修」行程

※現在計画中の行程で変更となる可能性があります。



北方文化博物館所蔵の良寛作品

新入会員募集

全国大学書道学会は、「書道に関する研究の充実と発展につとめ、会員相互の親睦をはかることを目的」(規約第3条)とし、第4条に定める、書道に関する研究発表や学会誌の発行、講演会や展覧会、その他研修旅行などを実施しています。

入会希望の方、入会希望者をご紹介いただける方は、本学会ホームページ(<https://all-shodo.jp>)をご参照いただき、ホームページ掲載の入会申込書を記入の上、お申込みください。入会申込書は、ホームページからダウンロードできます。(以下QRコードから接続できます)



QRコードをよみとると
入会申込書のページに
接続します。

全国大学書道学会規約(抜粋)

第2条

本会は、会員と準会員によって構成する。

会員は、国公私立大学の書道を専門とする教員、及び本会の目的に賛同する者とする。

大学院生は、準会員とする。

なお、大学院在籍者、及び本会の目的に賛同して入会を希望する者は、会員の推薦を受け、常任理事会の承認を経なければならない

第10条

会員の会費は、年額6,000円、準会員の会費は、年額5,000円とする。

ただし、会費未納の場合は、除名することがある。

前年度までに満64歳に達した会員のうち、前年度までに発生した会費(10年分以上)を完納した者は、3万円を一括納入した場合、以降の会費納入を免除する。

年会費納入のお願い

本学会の年会費について、同封の払込取扱票(赤色)により、7月9日(水)までに納入くださるよう、お願いいたします。

〈昨年度まで完納されている会員〉

* 年会費は、会員6,000円、準会員(大学院生)5,000円です。準会員は、大学院修了後、会員資格として取り扱います。(但し、大学院修了とともに退会を希望する場合は、必ず推薦者の了承のもと、事務局に退会を申し出てください。)

〈昨年度までに未納分がある会員〉

* 未納分のある方には、その旨を記載した「払込取扱票」を同封しておりますので、そちらで本年度分と合わせて納入ください。

〈次年度に長期会員優遇措置の適用を希望される会員〉

* 本年度64歳を迎え、かつ本年度までの会費(10年分以上)を完納された方は、**次年度**3万円一括納入により終身会員となり、その後の会費納入が免除されます。希望される場合は、「払込取扱票」の所定欄にご記入の上、会費を納入ください。

〈長期会員優遇措置が適用された会員〉

* 昨年度までにご申告いただき適用が認められた方には、「往復はがき」「払込取扱票」のいずれかまたは双方を同封しておりますので、そちらの記載に基づきご対応ください。申告済みにもかかわらずその記載がない方は、速やかに下記へお申し出ください。

■口座番号 00110-9-613810

■加入者名 全国大学書道学会

〈全国大学書道学会 会計局〉 〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学芸術系 尾川研究室内

TEL/FAX 029-853-2717

E-mail ogawa@geijutsu.tsukuba.ac.jp